

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 3 月 19 日

事業所名 ワーカーズコープ三島地域福祉事業所ぽっかぽか

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			
	2 職員の配置数は適切である	7	1	利用者の急な変更に対し各指導員と連絡を取り合い増減	個別対応が必要な児童も多く送迎時にはほぼ同乗者を配置しているため、事業所に残るスタッフが薄くなる場合あり
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	3	隣家との境界に高めの柵を設置	玄関口にスロープ検討
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	4		一部や個別の関係での共有になっており、全体での参画の場が出来ていないこともある
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		日常的に保護者と連絡を取り合い、意見やニーズを可能な限り生かしている	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	5		今年度より公開
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	5	法人内の監査や現場評価で対応	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	3ヶ月に1回程度の研修を実施	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		日常的なやりとりを頻繁にしている中でのアセスメントが中心であるので、アセスメントの機会をしっかりとすることは必要
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	5		聞き取りシートなどは活用しているが、全体での共有がまだまだ
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	スタッフで役割を分担しながら行っている	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	個々の利用児童の状態ややりたいことを踏まえた上で決めている	おもちゃや本などの種類が少ないので、補充する予定
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		休日、特に長期休暇中は、外出プログラムを充実させている
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		集団活動が難しい児童が多いため個別活動中心になっているが、日常から児童同士の関係性を大切にしている・外出プログラムを中心に集団活動も進めている
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	3		送迎から戻る時間がバラバラの為になかなか全体で出来てはいるが、「連絡ノート」と「子どもの様子/保護者との会話ノート」を作成、確認したらサインをすることになっている
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			記録はしっかり取っているが、支援の検証や改善に計画として入れ込むことを強化する
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	3		日々の変化で方向性が見直しは行っているが、計画自体は最低限の期間での見直しになっているので、改善したい	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	3		基本活動を複数組み合わせ合わせた支援は行っているが、ガイドライン自体の共有や意識づけが出来ていない	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	3	児発管・管理者・常勤指導員が参加している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	2		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5	3	※現在は現場での医療的ケア対応児童なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3		児発管が行っているが、他の職員がそれを理解しているかは、個人によってマチマチ
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			※これまでに該当児童なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	4		児童の多くがコミュニケーションが難しく、外出プログラムの際に、生涯学習センターなどでのふれあいがありに止まり、積極的には取り組めていない
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1		
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	7		個別に助言などは行っているが、事業所として意識して取り組むレベルにはない	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	重要事項説明書に、利用者負担単位一覧や計算方法を記載し説明している	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	1		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	2		
	35	個人情報に十分注意している	8			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	絵カード作成など	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5		住宅街の中にある事業所ではあるが、近隣との関係づくりに取り組み始めた段階

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	6		年に1回の避難訓練にとどまっている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	2		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2		身体拘束についての事業所内での共有と保護者との相談や説明は不十分
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	2	※現在アレルギー対象者なし	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2		